

平成26年度

自動車用品小売業協会決算報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

目次

P 2	平成26年度事業広告について
P 3	1、テーマ「楽しくドライブしようよ！」
	2、会議スケジュール
P 4	3、啓発イベント
	・交通安全アクション2014
	・洗車の日イベント開催
	・万引追放SUMMERキャンペーン開催
	・2014洗車の日キャンペーン実施
	・秋の全国交通安全運動
P 11	4、APARA研修
	・カー用品店における販売部品・用品の勉強会
	・メンタルヘルス勉強会
	・リサイクル業者視察
	・次世代自動車普及に向けた国の取り組みについて
	・景品表示法勉強会
	・自動車検査法人による店舗調査結果報告会
P 13	5、新しい取組・活動
	・Fun to Shareに参加
	・電波製作ビジョン懇談会に参加
	・ナンバープレートカバー検討委員会
	・自動車整備人材確保・育成推進協議会に入会
P 14	APARA年間活動スケジュール
P 20	海外視察報告レポート
P 21	SEMAツアー2014報告書
P 29	サンパウロ国際モーターショー視察報告書
P 43	平成26年度 収支報告について

平成26年度事業報告について

【平成26年度APARA活動総括】

1、テーマ：「楽しくドライブしよう！」

APARA活動の柱を、ドライバーの皆様に「楽しく安全なドライブ」を楽しんでいただく事を基本とし、法令の改定などは各官庁や関連団体と協調し、会員企業がドライバーの皆様のご相談窓口となるお手伝いをいたしました。その為に情報の共有化と啓発活動を行いました。

2、会議スケジュール

- 1) 全体会議
 - ・ 定時総会 5月23日(金)
 - ・ 中間報告会 10月9日(木)
- 2) 理事会
 - ・ 5月23日(金)、10月9日(木)、
- 3) イベント参加
 - ・ AAAAL第6回「洗車の日」キャンペーン(4-5月度)
- 4) タイヤ点検タスク
 - ・ ①7月17日(木)、②8月21日(木)、③10月23日(木)
 - ④12月10日(木)、⑤2015年2月10日(火)
- 5) コンプライアンス委員会(AAALでの担当委員会)
 - ・ メンタルヘルス勉強会 6月12日(木)
 - ・ リサイクル業者視察 9月26日(金)
 - ・ 景品表示法勉強会 10月31日(金)
 - ・ 検査法人との意見交換会 2月27日(金)
 - ※検査法人による店舗チェックは6/27~10/24で実施
- 6) AAAL関連会議
 - ・ 代表者会議・幹部会・活性化委員会・コンプライアンス委員会
 - ・ 海外視察 ①サンパウロモーターショー(ブラジル)視察
 - ②北米(デトロイト・SEMA)視察
- 7) 関連団体の会議参加
 - ・ 自動車部品・用品連絡会
 - ・ 不正改造防止推進協議会
 - ・ 自動車点検整備推進協議会
 - ・ 自動車税制フォーラム
 - ・ 全国万引防止協議会
 - ・ 東京都万引防止官民合同会議
 - ・ アクション2014(交通安全イベント)
 - ・ その他
 - ※2015年度より「自動車整備人材確保・育成推進協議会」加入する。

3、啓発イベント

①. 交通安全アクション2014



自動車会議所様主催の「交通安全／アクション2014」に参加させて頂きました。本年度は過去最多の5100人が来場され各ブースは通常よりもにぎわっておりました。39の団体や企業が出展協力し、交通安全を訴えるアトラクションがおこなわれ、多くの人々が体験した。特に道路標識を題材とした交通安全ビンゴ大会や、白バイ搭乗体験、スタンプラリーが子供達に人気でした。

②. 洗車の日イベント開催

4月26日、27日の両日、洗車の日イベント「テント村でクルマをキレイしよう」を、オートアールズ前橋みなみモール店にて開催いたしました。

洗車の日イベントの開催も今年で6回目を迎え、これまで洗車教室やタレントによるトークショーなどとは異なり、カー用品メーカー様が実演を行いながら即売会を行うスタイルでの開催いたしました。

会場となったオートアールズ前橋みなみモール店はスーパーマーケットやホームセンター、書店などが出店する「パワーモール前橋みなみ」の一角に位置し、北関東自動車道のICに隣接するという交通利便性の高い場所です。その為に休日の集客数は7000名を超え、イベント当日もファミリー層や女性客を中心に賑っていました。



③. 万引追放 SUMMER キャンペーン開催

7月23日(水)警察、自治体、関係業界・団体、地域住民等、社会総ぐるみの万引き追放に向けた気運の醸成と規範意識の向上を図るため、日比谷公会堂(千代田区日比谷公園1-3)で、「万引追放SUMMERキャンペーン」を開催いたしました。主催は東京万引防止官民合同会議で、APARAも理事団体として加盟し活動しています。



④. 2014洗車の日キャンペーン実施

ドライバーの皆さんに愛車に触れて頂き、メンテナンスの不備やボディーのキズなどに気付いてもらう為のきっかけとして「手洗い洗車」を啓発。各加盟企業がそれぞれの特性を活かした売場を作り、お客様にメンテナンスの重要性を啓発した。

その中で「売場コンテスト」を実施し、入賞店50店舗とベスト10を決定した。

・2014洗車の日売り場コンテスト ベスト10店



1位 オートボックスやお店



2位 イエローハット盛岡南店



3位 ジェームス柳津店



オートボックス山形北店



オートボックス狭山店



スーパーオートボックス金沢店



オートボックス 環七板橋店



ジェームス 音更店



ジェームス 幸手店



イエローハット 亀岡店

2014 洗車の日売り場コンテスト 入賞店

イエローハット	イエローハット水沢店・イエローハット二本松油井店・ イエローハット遠野店・イエローハット西新井店・ イエローハット総和店・イエローハット弘前店・ イエローハット竜ヶ崎中根台店・イエローハット高岡店・ イエローハット金沢田上店・イエローハット藤代6号バイパス店・ イエローハット猪子石東店・イエローハットピット100太田店・ イエローハット紫竹山店・イエローハット浜北新原店
オートバックス	オートバックス佐倉店・オートバックス蔵王店・ スーパーオートバックス名古屋ベイ店・オートバックス春日部店・ オートバックス多摩境店
ジェームス	ジェームス千波店・ジェームス唐木田店・ジェームス小山神山店・ ジェームス171茨木店・ジェームス名取店・ジェームス星が浦店・ ジェームス西岡山店・ジェームス津島神守店・ ジェームスグリーンロード店・ジェームス太田高林店・ ジェームス熊谷月見店・ジェームス北8条光星店・ ジェームス厚別通店・ジェームス名和北店・ ジェームス西条インター店・ジェームス248岩津店・ ジェームス日永東店・ジェームス湘南台店・ジェームス百合が原店・ ジェームス郡山店・ジェームス津福バイパス店

⑤. 秋の全国交通安全運動

秋の全国交通安全運動期間中（9月21日から30日）それぞれの店舗で告知を実施した。APARA流交通安全運動とは、日本自動車タイヤ協会様が毎年実施している「タイヤの空気圧不足」の整備不良車を減少させようというものである。

タイヤの空気圧不足はクルマの安全走行に影響を及ぼし事故の要因にもつながるが、点検はドライバー自身で目視ではできないため、PITの作業場を常設しているAPARA加盟店がドライバーの相談を受けてメンテナンスをすることで「空気圧不足」の整備不良車が減少する事を目的とする。

将来的にはAPARA加盟店舗での啓発以外に人の集まる、高速道路サービスエリアや道の駅・大型ショッピングセンターでも啓発イベントの実施も視野に入れている、。

この場合、PIT作業場がないために告知活動に特化する事を踏まえてAPARA加盟店でPITを持たないサービスエリアで営業している「オートバックスPassar三芳店」で配布啓発活動を実施した。

・APARA

サービスエリアで行うことで、お店になかなか足を運ばれない方やトラックドライバーなどにも点検の重要性を啓発できるため、のぼりやポスターなど設置をして、タイヤの重要性のパンフレット・ノベルティグッズとしてタイヤの溝点検カードを配布した



・配布物



・オートバックスセブン

【啓蒙活動】

9月度に全店舗向けに『タイヤ安全点検企画』を立ち上げ、秋の交通安全週間に合わせて点検の強化月間として取り組む。

【活動結果】

- ・点検はピット入庫車は全台、店頭においても積極的に声掛けを行う。
- ・従来のタイヤの溝・キズだけでなく、夏タイヤは空気圧チェック、冬タイヤは硬度計を使ったチェックを行い、より安心安全の啓蒙に努める。

【告知活動】

- ・安全啓蒙の告知についてはロードサイド訴求とWEBで実施する。

【活動結果】

- ・タイヤのぼりを全店に5枚ずつ提供し、8月末から10月中旬まで継続的に訴求する。



・イエローハット

- ・全店に設置の「危険タイヤ什器」「セルフ空気圧補充什器」に添付のPOPをつけて啓蒙する



・タクティー

- ・店頭に空気圧点検啓蒙コーナーを作成し、来店客へ点検を呼びかけ、残溝と空気圧をチェック。
- ・チェックシートをお客様にお渡しし、タイヤ点検の重要性を説明する。



- ・住友ゴム工業
- ・のぼりを設置しホームページで告知



- ・ヨコハマタイヤジャパン
- お客様の見える位置にのぼり旗を設置して告知



- ・ブリヂストンリテールジャパン
- タイヤ館全店でウェブでの安全点検告知（本部管轄サイト+店舗個別サイト）
- 店頭での安全点検告知、安全点検実施



- ・トーヨータイヤジャパン

タイヤ交換作業を伴う弊社拠点（営業所）にて空気圧無料点検のぼりでの訴求、また、待合室でのポスターを使用した安全啓蒙活動の実施となります。



4、APARA研修会

①. カー用品店における販売部品・用品の勉強会

6月11日(水)自動車検査法人様の協力を得て、「カー用品店における販売部品・用品の勉強会」を実施いたしました。2会場設け、(株)オートバックセブン様経営の「SA NAGOYABAY」にて、販売しているアイテムの調査を行い、その後会場を「自動車検査法人独立行政法人 中部検査部」様に移し、勉強会および意見交換会を実施いたしました。当日は26名の参加を頂き活発な意見交換がなされました。



②. メンタルヘルス勉強会

6月12日(木)中央労働災害防止協会様の協力を得て「管理者のコミュニケーション不足による労働災害防止講座」を実施致しました。36名の皆さんに受講いただき、「日頃の上司と部下のコミュニケーションの取り方」や、「指示の出し方」など例を挙げて講義は、取組始めたばかりの企業様からは、有益だったとのご意見を頂きました。

今回は、第1回目という事もあり、導入部分を中心に講義内容でしたので、既に取り組んでいる企業様には、少し物足りない内容だったかと思いますが、今後は受講者の役職や立場を絞りながら、今回の導入講義から、担当者別講義に移行していきます。



③. リサイクル業者視察

日本自動車リサイクル部品協議会様の協力を得て、昭和メタル岩槻工場・越谷フェンダー本社工場を視察させていただきました。昭和メタル岩槻工場では使用済みのフロン回収や前処理行程、その後の部品取りと破碎処理、エアバックの処理などの自動車解体作業を視察いたしました。

自動車のリビルド部品を扱う越谷フェンダーでは、リビルド部品を再生する行程を視察致しました。



④. 次世代自動車普及に向けた国の取り組みについて

10月9日（木）に開催されたAPARA活動報告会にて、経済産業省製造産業局自動車課の潮崎雄治様と鈴木理大様に「次世代自動車に向けた国の取組み」をテーマにご講演をいただきました。



⑤. 景品表示法勉強会

10月31日（金）消費者庁表示対策課規約第2係長 松川実様による「景品表示法」の概要と改正について勉強会が開催された。当日は48名のご参加を頂き食品業界の事例と判例を紹介しながら進行し「景品表示法の基本的な考え方」「景品表示法における優良誤認」「食品表示に係る景品表示法の違反事例」について講習を受け、「事業者者が講ずべき景品類の提供及び表示の管理上の措置についての指針（案）」についてもポイントの説明を受けた。



⑥. 自動車検査法人による店舗調査結果報告会

APARA加盟店舗で販売している商品を対象に全国20店舗対し、車検業務を取り扱う自動車検査法人の調査官にチェックをして頂き、その後問題となる商品について意見交換を行いました。本年度は68品目に指摘があり、報告会には検査法人本部より5名がお越しになり、小売業・製造メーカーからは合わせて41名の参加をいただき、今後商品の開発・仕入れ等の提案を致しました。

5、新しい取組・活動

①. Fun to Share に参加

2014年3月26日に環境省はこれまでの地球温暖化防止国民運動に代わる新たな気候変動キャンペーンとして「Fun to Share」スタートしました。APARAはこれまで業界としてレジ袋削減やエコドライブ運動を推進し、昨年一昨年と「エコプロダクツ2012・2013」に参加するなど、環境配慮型した運営を商品の紹介してきました。それらの取組から「Fun to Share」へ参画を検討しております。
Fun to share のホームページは、二次元バーコードで閲覧できます。



②. 電波政策ビジョン懇談会に参加

2014年1月、総務省は、無線通信の高度化への期待及びニーズが高まるなか、電波ひっ迫解消のため抜本的な見直し、世界最先端のワイヤレス立国の実現・維持を図るべく、新しい電波利用の姿等についてより具体的に議論を行うことを目的として「電波政策ビジョン懇談会」を立ち上げました。

8月末までに10回の懇談会を開始し、8月25日に開催された第10回に参加致しました。

懇談会内容は多岐にわたり、スマートコミュニティー都市における電波の役割から、自動車の自動運転まで意見交換がありました。カー用品業界も電波を使用した商品開発が今後増えてくる傾向にあるため、情報の入手は必要となります。

第1回目から第10回目の懇談会資料は二次元バーコードで閲覧できます。



③. ナンバープレートカバー検討委員会

ナンバープレートカバー全面禁止法令化に向けて国土交通省主催の検討委員会が再度発足いたしました。過去においての検討委員会では禁止の方向性は打ち出したものの法令化にまでは至らず、犯罪防止の観点からも視認性の確保という基準を明確にして法令化する事を検討していきます。

④. 自動車整備人材確保・育成推進協議会に入会

平成26年4月に整備事業を営む関係者が協力し国土交通省指導のもとで発足。人材確保に関するPR等の取組を推進する為に、現在14団体が加盟している。

補足資料：2014年度 APARA 活動スケジュール

4月

4月1日	洗車の日マスコミ打ち合わせ
4月2日	洗車の日イベント打ち合わせ
4月3日	洗車の日マスコミ打ち合わせ
4月8日	第71回自動車部品・用品団体連絡会
4月11日	AAAL第1回洗車の日分科会 AAAL第1回活性化委員会
4月12・13日	交通安全アクション2014(自動車会議所)
4月15日	洗車の日マスコミ打合せ
4月16日	洗車の日イベント打ち合わせ
4月17日	全国万引犯罪防止機構会合
4月23日	洗車の日マスコミ打ち合わせ
4月24日	日本印刷技術協会(JAGAT)会合
4月26日	2014 洗車の日イベント(オートアールズ前橋みなみモール店)

5月

5月1日	自動車検査法人訪問
5月8日	マスコミ打ち合わせ
5月9日	交通安全アクション2014 反省会
5月12日	AAAL第1回スポーティングパーツ分科会 AAAL第1回幹部会
5月13日	労働災害防止研修会打ち合わせ
5月20日	集団窃盗等の取扱いに関する調査研究小委員会
5月22日	JAPA 定時総会講演会 JACA 定時総会
5月23日	第42回 APARA 理事会 第17回 APARA 総会・総会報告会・懇親会
5月26日	会員企業訪問
5月27日	タイヤ公正取引協議会通常総会
5月28日	JATMA 訪問
5月28日	全国万引犯罪防止機構理事会

6月

6月3日	日本万引きシステム協会通常総会
6月10日	第72回自動車部品・用品団体連絡会
6月11日	店舗調査 SA NAGOYABAY 日本自動車会議所定時総会懇親会

6月12日	AAAL 第1回コンプライアンス委員会
6月18日	全国万引犯罪防止機構通常総会
6月19日	集団窃盗等の取扱いに関する調査研究小委員会
6月20日	カーたび推進機構総会
	全日本自動車部品卸商協同組合総会
6月23日	経済産業省訪問
6月26日	国土交通省訪問
6月27日	店舗調査 YH立川店

7月

7月1日	AAAL 第2回幹部会
7月4日	店舗調査 YH小野田店
7月8日	店舗調査 SA大野城三笠川店
	店舗調査 AB佐賀南バイパス店
7月10日	第1回自動車点検整備推進協議会
7月11日	第27回日刊自動車新聞社 用品大賞 2014
7月15日	AAAL 第2回洗車の日分科会
	AAAL 第2回活性化委員会
	AAAL 第2回スポーティングパーツ分科会
7月15日	APARA 第1回タイヤの安全点検検討タスク
7月23日	第5回万引き追放 SUMMER キャンペーン
7月24日	集団窃盗等の取扱いに関する調査研究小委員会
	店舗調査 YH鳥取店
7月29日	JATMA訪問
	カーたび機構「第8回かつてに研究会」
7月30日	総務省訪問
7月31日	AAAL 第20回代表者会議

8月

8月1日	店舗調査 ジェームス永山店
8月4日	店舗調査 AB仏生山店
	店舗調査 YH長岡店
	店舗調査 YH国吉田店
	店舗調査 AB長野店
	店舗調査 タイヤ館鈴鹿店
8月6日	自動車税制フォーラム第2回全体会議
8月7日	Fun to Share(環境省)打ち合わせ
8月19日	店舗調査 AB新札幌店
	店舗調査 AB山形北店
	店舗調査 AB天童店

8月20日	AAAAL第3回洗車の日分科会
8月21日	APARA第2回タイヤの安全点検検討タスク
8月25日	第10回電波政策ビジョン懇談会
8月26日	店舗調査 SA八木店 店舗調査 YH奈良店
8月28日	経済産業省訪問
9月	
9月1日	店舗調査 YH松山北店
9月2日	交通安全週間マスコミ打ち合わせ
9月4日	交通安全週間マスコミ打ち合わせ
9月5日	交通安全週間マスコミ打ち合わせ
9月8日	Fun to Share(環境省)打ち合わせ
9月10日	交通安全イベント南房総市道の駅打合せ
9月26日	AAALコンプライアンス委員会業者視察2014 平成26年ナンバープレート表示の視認性確保に関する検討会 (国土交通省)
10月	
10月9日	第43回APARA定時理事会 第19回APARA上期活動報告会・記念講演会・懇親会
10月14日	第73回部品・用品連絡会
10月17日	AAAAL2014第4回洗車の日分科会
10月23日	APARA第3回タイヤの安全点検検討タスク NAPAC第11期総会懇親会 店舗調査 ABニュー北谷店
10月24日	店舗調査 YH具志川店
10月28日	AAAAL2014第3回スポーティングパーツ分科会 AAAAL2014第3回幹部回
10月31日	景品表示法勉強会
11月	
11月1～8日	AAAAL北米自動車関連流通視察ツアー
11月12日	第2回ナンバープレート表示の視認性確保に関する検討会
11月12日	洗車の日分科会打ち合わせ
11月18日	水素燃料シンポジウム 総務省打ち合わせ
11月19日	JAAAMA打ち合わせ 羽鳥会計様年末調整打ち合わせ
11月21日	Fun to Share事務局打ち合わせ
11月26日	第10回東京万引防止官民合同会議

11月27日 A A A L第6回洗車の日分科会
A A A L第3回活性化委員会
11月28日 J A A M A技術委員会

12月

12月2日 会員企業訪問
12月4日 スポーティングパーツ勉強会打合せ
12月4日 会員企業訪問
12月8日 ケーブレイン 洗車の日チラシ打合せ
12月9日 J T B打ち合わせ
第74回部品・用品連絡会
12月10日 第1回J I S改正原案作成委員会
A P A R A第4回タイヤの安全点検検討タスク
12月11～13日 ケーブレイン打ち合わせ
大同紙工印刷打ち合わせ
J A C A訪問
12月12日 平成26年スポーティングパーツ勉強会
国土交通省訪問
中央労働災害防止協会 安全健康意見交換会
12月15日 会員企業訪問
12月16日 自動車会議所研修会
「自動車業界～2014年の振り返りと2015年の展望」
12月17日 日本カーライフアシスト打ち合わせ
12月18日 会員企業訪問
12月19日 総務省訪問
近畿日本ツーリスト打合せ
12月25日 A A A L第21回代表者会議

1月

1月8日 東京オートサロン2015準備
1月9～11日 東京オートサロン2015チラシ配布
1月9日 電池工業会 平成27年新年賀詞交歓会
平成27年自動車機械工具二団体新年賀詞交歓会
N A P A C「新年の集い」
1月14日 日刊自動車新聞社打ち合わせ
1月15日 J A T M A訪問
万引犯罪防止機構 第2回理事会
1月16日 J A A M A・J A C A賀詞交歓会
1月20日 万引犯罪防止機構臨時総会

1月22日 日本自動車部品工業会 新年懇親会
 1月23日 南房総市役所打ち合わせ
 1月27日 不当表示課徴金制度導入に関する勉強会
 日本自動車リサイクル部品協議会第4回定時社員総会懇親会
 1月29日 第17回愛知県万引防止対策協議会

2月

2月4日 APARA三役会
 2月5日 税制フォーラム
 2月6日 ケーブレイン打ち合わせ
 2月10日 第4回タイヤの安全点検検討タスク
 第75回部品・用品連絡会
 2月12日 全国万引犯罪防止機構竹花副理事長講演会
 交通毎日新聞社打ち合わせ
 自動車会議所研修会「高齢ドライバーの運転適性の変化」
 ～高齢運転者の運転行動と高齢者講習受講結果の分析～
 大阪オートメッセ2015準備・前夜祭
 2月13日 BHT打ち合わせ
 ケーブレイン打ち合わせ
 2月13～15日 大阪オートメッセ2015チラシ配布
 2月16日 税制フォーラム
 AAAL洗車の日委員会
 2月17日 不正改造防止推進協議会
 AAAL3代表ミーティング
 2月25日 東京万引き防止官民合同会議
 2月26日 JAAMA総会
 JMCA記念講演、懇親会
 2月27日 自動車検査独立行政法人打ち合わせ
 AAAL第4回スポーティングパーツ分科会

3月

3月2日 羽鳥会計打ち合わせ
 3月3日 交通タイムス社打ち合わせ
 3月4日 スーパーオートボックス横浜みなとみらいイベント打合せ
 DIY協会訪問
 近畿日本ツーリスト打ち合わせ
 3月5日 第2回JIS改正原案作成委員会
 タイヤ騒音規制検討会
 3月6日 スーパーオートボックス横浜みなとみらい打ち合わせ
 3月9日 AAAL第7回洗車の日分科会

3月11日	BHT打ち合わせ
3月12日	IAAEオートアフターマーケットサミット
3月17日	日刊自動車新聞社 自動車シンポジウム
3月18日	自動車点検整備推進協議会 スポーティングパーツ打ち合わせ
3月19日	交通毎日新聞社打ち合わせ
3月20日	会員企業訪問 JAPA打ち合わせ
3月24日	交通安全アクション2015説明会 国土交通省訪問
3月25日	南房総市市役所訪問
3月26日	カーグッズマガジン取材 AAAL第22回代表者会議
3月27日	自動車点検整備推進協議会

以上

平成26年度海外視察報告レポート

SEMA ツアー2014 報告書

- 企画／主催 オートアフターマーケット活性化連合(AAAL)
 ■旅行企画実施 (株)JTB コーポレートセールス 霞が関第五事業部 営業第三課
 ■期間／旅程

1日目	11月1日(土)	デトロイト視察	<ul style="list-style-type: none"> ・Michigan Central Train Depot/ ・Michigan Avenue ・Highland Park/Woodward Avenue/ ・Greek Town
2日目	11月2日(日)	デトロイト視察	<ul style="list-style-type: none"> ・Automotive Hall of Fame ・Henry Ford Museum ・Henry Ford Museum Café ・Greenfield Village ・Detroit Historical Society
3日目	11月3日(月)	デトロイト視察	<ul style="list-style-type: none"> ・Toyota Ann Arbor(ディーラー視察) ・Advance Auto Parts ・O`Relly Auto Parts ・Oakland Mall ・Troy Motor Mall<<モーターショー内のディーラー>> ・GM World/GM Renaissance Tower ・Consulate General of Japan office (在デトロイト日本国領事館にてセミナー)
4日目	11月4日(火)	ラスベガス視察	・SEMA SHOW 自由視察
5日目	11月5日(水)	ラスベガス視察	・SEMA SHOW 自由視察
6日目	11月6日(木)	ラスベガス視察	<ul style="list-style-type: none"> ・バスプロショップ ・ペップボーイズ ・オートゾーン ・フィンドレー・キャディラックディーラー ・ウォルマート・スーパーセンター ・プレミアアウトレット・ノース
7日目	11月7日(金)	ラスベガス発	移動日 成田へ(ポーランド乗継)
8日目	11月8日(土)	東京(成田)着	到着後、解散へ

■参加者 (24名)

※順不同・敬称略

1	株式会社オートバックスセブン	住野 耕三	取締役常務執行役員
2	株式会社オートバックスセブン	川添 義将	商品開発部
3	株式会社オートバックスセブン	釜元 正明	タイヤ・ホイール商品部

4	株式会社タクティー	能登 義孝	タイヤバッテリー商品部第2商品室 室長
5	株式会社タクティー	野間 剛	マーケティング部プロジェクト推進室 室長
6	株式会社ボンフォーム	矢野 弘行	営業本部 統括部長
7	エイケン工業株式会社	早馬 義光	代表取締役社長
8	星光産業株式会社	若槻 浩隆	製品企画室 室長
9	星光産業株式会社	越智 裕之	製品企画室 課長
10	株式会社セイワ	木村 達人	営業部 課長
11	錦産業株式会社	伊藤 太一	営業部一課
12	株式会社岡田製作所	岡田 陽一	営業部 係長
13	ハマニ化成株式会社	野村 純司	海外部 取締役
14	ハマニ化成株式会社	池野 君則	営業部営業1G 係長
15	株式会社カーメイト	鈴木 英介	福岡営業所 所長
16	株式会社エッチ・ケー・エス	川北 真也	営業部 取締役 営業部長
17	株式会社エッチ・ケー・エス	清水 潔	営業部海外営業課 課長
18	株式会社ワーク	土井 祐介	営業部名古屋営業所 リーダー
19	株式会社ワーク	稲澤 彰	大宮営業所 所長
20	株式会社ワーク	嶋村 友彰	製造部開発課
21	株式会社ワーク AMP 開発課	岡崎 淳	製造部 開発課
22	一般社団法人自動車用品小売業協会	中小路 俊康	事業推進部長
23	日本オートケミカル工業会	滝澤 政明	専務理事
24	株式会社 JTB コーポレートセールス	石井 良和	添乗員

2006年から毎年実施している SEMA ツアーも今年で9回目を迎えました。

今回の SEMA ツアーは昨年度と同じコース デトロイト3(スリー)の本拠地 米国自動車産業発祥地デトロイト視察に焦点を当てた企画で実施いたしました。

【デトロイト再生へ一歩】

昨年デトロイト市がアメリカ連邦破産法第9条による保護を申請したことは既にメディア等で報じられました。

今回現地の視察で感じたのは、早くもデトロイト市の復興工事が始まっており、一度廃線した路面電車の復活工事が始まっていました。又 中心部の土地価格が上昇傾向で土地の買い占めも進み価格が数倍～10倍上がった地域もあり明るい兆しが見えてきていました。

米国自動車メーカー デトロイト・スリー(GM、FORD、FIAT CHRYSLER)の業績が、昨年度から自動車生産及び売上は順調に伸び、特に個人消費に勢いが加わり、大型 SUV、ピックアップの売り上げが好調のようです。



- ・GM 本社ビル「GM ルネッサンスセンター」デトロイト市の中心にあります、マリオットホテル、日本領事館も入っています。
- ・GM 車ショールームが入っており全てのブランドがココで見られ触れチェック出来ます。

【在デトロイト日本国総領事館 セミナー:「米国自動車販売の現状」】

2014年9月の新車販売台数は容易かつ低金利なローン、低いガソリン価格、新型車の投入等により引き続き好調であり、単月では過去10年間で最大となりました。(単月で前年同月比9.4%増、累計で同5.5%増)

ピックアップトラック(フォードは年末の新型車投入を見越した在庫整理、買い控え等により減少)やSUVが好調であり、特に前者は販売上位車種1・2・3位を独占。・2014年の累計市場シェアは、米国勢:45.1%、日本勢:37.7%、欧州勢:9.0%、韓国勢:8.1%。(CAR調べ)

住宅とPicUpトラックが売れる事は景気が良くなった証拠と現地では言われています。



右・領事館会議室から見たデトロイト市の中心ダウンタウン
左・在デトロイト日本国総領事館 片山様 高瀬様

【デトロイト市内】



ようやく町の復興作業が動き始め 古いビル等復興プロジェクトのスタートし、デトロイト市内に人が戻る復活へのスタートが始まったようです。

ミシガン中央駅は1913年に設立された18階建てのビルです。建設当時は世界で最も高い鉄道駅として有名になりました。1975年に国家歴史登録財に指定 しかし1988年に閉鎖され今は観光名所になっています。



右の写真は、デトロイトタイガースの本拠地である「コメリカ・パーク」球場。古いレンガ壁のビルは1920年代のビルです。

【ヘンリー・フォード博物館】・「グリーンフィールドビレッジ」】

エジソン学会(Edison Institute)が管理・運営するヘンリーフォード博物館は、(正式には “ヘンリーフォード博物館とグリーンフィールドビレッジ:Henry Ford Museum and Greenfield Village)アメリカ最大級でミシガン州メトロ・デトロイトエリアに属する、ディアボーンの博物館複合施設であり、アメリカ合衆国国定歴史建造物に指定されている。

館内はとても広く高く、蒸気機関・発電機、ファニチャー、生活文化等のコーナーが有りゆっくり見ると1日が必要となる。更に博物館の外(反対側)にグリーンフィールドビレッジが有り、1920年代の町(村)を忠実に再現してある。こちらも見学には半日以上以上の時間が必要です。



【自動車殿堂(Automotive Hall Of Holl)】

CVCC エンジンの開発を主導、シビックに搭載し 1970 年代の米国排気ガス基準を満たした最初のメーカーとして、自動車殿堂に 1989 年 本田総一郎が殿堂入りしている。
HONDA ACCORD 米国 OHIO 工場第1号車が展示してある。



【グリーンフィールドビレッジ】



T 型フォード全盛の1920年代のディアボーンの街(村)を再現し、自動車や蒸気機関車も当時のモノを走らせています。スタッフの服装も、建物も全て 1920 年代をイメージしています。

視察で、T 型 FORD に乗ってみましたが、前進 2 速・後進 1 速・2400CC・4 気筒エンジンは何の問題も無くスムーズに加速しました。

【エジソン研究所】



ここでエジソンがいろいろな研究・実験をしました。

天上に小さく見えるのが電球です。日本の竹を使ったフィラメントです。この電球の明るさはたった 6W、10 個合わせても 60W です。

【FORD MOTOR COMPANY】 設立当時に再現



T 型フォードは 16 年間販売つづけ 全世界で 1500 万台を販売した。

【デトロイト市内「小売店舗クリニック」】

・シアーズ・オートセンター Sears Auto Senter

庶民デパートとして有名なシアーズのオート部門。

パーツ販売だけでなく ピットも備えており、タイヤ交換から整備までこなします。

朝会社へ行く前に車を預け夕刻に引き取りに来ます。





・アドバンス・オート・パーツ Advance Auto Parts

米自動車部品小売り1位

ゼネラル・パーツ・インターナショナルを買収し補修部品市場(アフターマーケット)で Auto Zone を抜き北米最大の自動車部品プロバイダーとなった。

パーツ&アクセサリーの販売のみで Pit サービスは無く、駐車台数も10数台と狭い小型店である。

主にパーツとアクセサリーを販売しておりメンテナンスやバッテリー交換修理等のサービスは一切行なわない。

ライバルは オートゾーン Auto Zone



・ダンニング・トヨタ/DUNNING TOYOTA

複数のオートディーラーの集まるアナーバー通りにあるトヨタのディーラー。

トヨタと若者向けのサイオンブランドを取扱い、併設した棟でスバルディーラーも展開。

顧客満足向上を達成する為には、まず社員にそれを解ってもらう事が一番大切だと言う 副社長兼ゼネラルマネージャーのジョンFテイラー氏。テイラー氏の説明によるとトヨタから

日本式のカイゼン(改善)を学び、少しずつ親切な対応、お客様がどう喜んでいただけ

るかを実践しているとの事。

テイラー氏の話す内容は日本人の(トヨタマン)ような感じを受け、ピットサービスに来るお客様の対応も笑顔で迎えている姿に感動すら覚えた。



土地柄か、FRS(86)の売り上げが今一歩。

併設している隣の SUBARU 店の FRZ の方が良いとか(笑)

【SEMA SHOW 2014 Las Vegas 視察】

昨年以上の賑わいを見せていた会場の人と展示車両の数！

米国自動車メーカーの売上好調と正比例しているかのように昨年以上の規模、展示数です。デトロイト3はマッスルカー(GMカマロ、FORD マスタング、CHRYSLER チャレンジャー)とBIG・SUVに力を入れた展示です。

・一時展示台数が減った日本車も元気になってきました。「TOYOTA・86」、アメリカではSCIONサイオンブランド「SCION・FR-S」で販売されています。このFR-Sの展示車両が多いこと！アメリカでの人気に分ります。



写真: MAZDA 新型 MX5 来年のワンメイクレース仕様

【日本からカー用品メーカーの出展】

・星光産業 SEIKOSANGYO

「JAPAN DESIGN&QUALITY」をアピール車内用品・灰皿・携帯電話関連商品



・カーメイト

「RAZO(レッツォ)」ブランド名のブースですシフトノブ、ペダルの商品

展示車は「SCION・FR-S」(TOYOTA86)



・PIAA Corporation

LED ライトをメインに展示車のヘッドライトも HID から LED の時代です



【LAS VEGAS 小売店舗クリニック】



・バスプロショップ Outdoor World by BassPro Shop

アメリカ最大のアウトドア・スポーツ用品チェーンストアで、衣料品・靴からモーターボート、拳銃・ライフルまでの品揃えです。

店内はとても広く 人口の川・滝が有り水が流れている。エンターテイメント型大型カテゴリーキラー。



・ペップボーイズ ThePepBoys

オートパーツ及びオートアクセサリ販売の小売チェーン店。2013 年業界売上全米 4 位。駐車台数を多くし、ピットサービス(取り付け)が特徴。

タイヤ、オイル交換が出来るのが他のパーツショップとの違い。

店長の話だとピットサービス売上が全体の 60%(粗利率 60%)、物品売上が 40%(粗利率 15%)、



・オートゾーン AutoZone

米自動車部品小売り 2 位。

昨年までパーツ売上 1 位だったが首位を Advance Auto Parts に譲った。

パーツ&アクセサリの販売のみで Pit サービスが無いのが特徴。上のペップボーイズと対象店。

駐車台数も 10 数台と狭い小型である。



・Las Vegas Valley Automall(バレーオートモール)」

ラスベガス近隣で最大のオートモール

18のディーラー及び24のブランドが集積されたオートモール。バレーオートモールは、ラスベガスの隣町であるヘンダーソン市に立地しラスベガスのストリップ

から東南に約20マイル(約30キロ)に位置するラスベガス近郊では最大の車ディーラー集積地区となる。現在では南ネバダでは最大のオートモールまでに成長した。このオートモールという形式はアメリカ人のクルマ購入方法に非常に適していることがその成長の要因の一つとなっている。

18も数あるディーラーの中から、今回は GM グループのキャデラックディーラー「Findlay CADELAC」を訪問。



「キャデラックディーラー「Findlay CADELAC」

キャデラック(Cadillac)は、ゼネラルモーターズが展開している高級車ブランドである。

外観は普通の建物のディーラーであるが、中に入って驚いたのが新車屋内展示 80 台の圧倒的ボリューム感。



更に・地下に高さ6M、48台のリフト 広い整備工場
夏のラスベガスの気温は45度Cを越える為 お客さまに快適な環境とリラックスできる場を提供している。



FindlayCADELAC セールスマネージャー ビル・ヤングさんの説明によるとキャデラックのオーナーの平均年齢は60歳で、ゆっくりした運転を楽しんでいるとの事。
リピート率 80% 一度オーナーになると他車への乗り換えは余りしないそうだ。
20%はメルセデス、BMW、レクサスへ移行と説明があった。

「まとめ」

・米国ミシガン州南東部にある都市デトロイト、日本車が少なく、アメ車(デトロイト 3)が多い地に広く・大きなアメリカを感じました。交通インフラが自家用車しかない現地ではクルマの依存、生活必需品として重要な道具(アイテム)です。

その中でTOYOTA 車を扱っているトヨタディーラーDUNNING TOYOTA の高レベルな接客サービスは、日本式の良い所を取り入れ徐々にシェアを上げている点などマネージャーの説明に感動をうけました。

・ラスベガスでのキャデラックディーラーFindlay CADELAC では、地下にある広大な「ピットサービス工場」をはじめ 至れり尽くせりのサービスは、リピーター率 80%に現れています。

・アメリカ小売業は、価格ディスカウントか、価格は下げずにサービスの質で満足させるかの 2極化が進んでいるよう



です。

最後に、在デトロイト日本国総領事館 片山様 高瀬様、JAC の倉本様 ありがとうございました。
この場をお借りしてお礼申し上げます。

報告者:JACA・JAAMA 事務局長 滝澤政明

2014年11月21日

AAAL2014サンパウロ国際モーターショー視察 報告書

- 企画／主催 オートアフターマーケット活性化連合（AAAL）
 ■旅行企画実施 近畿日本ツーリスト(株) ECG 営業本部 第2営業支店
 ■期間／旅程 2014年10月31日（金）～11月10日（月） 11日間

■期間／旅程

1日目	10月31日(金)	成田発 ニューヨーク着 ニューヨーク発	移動日
2日目	11月1日(土)	ブラジル サンパウロ着 サンパウロ市内視察	・KogaKogaサンパウロ店(カー用品店) ・VOLI(カー用品店) ・在ブラジル日本商工会議所 天谷氏による講演
3日目	11月2日(日)	サンパウロ視察	・サンパウロ国際モーターショー(自由視察) ・オートモール視察(※モーターショーのため休業) ・アイルトン・セナ墓地訪問
4日目	11月3日(月)	サンパウロ発 イグアス着	・自由視察
5日目	11月4日(火)	イグアス滞在	・自由視察
6日目	11月5日(水)	イグアス視察 イグアス発 リオデジャネイロ着	・自由視察
7日目	11月6日(木)	リオデジャネイロ滞在	・在リオデジャネイロ日本国総領事館訪問・セミナー
8日目	11月7日(金)	リオデジャネイロ視察 リオデジャネイロ発	・H-Centro(トヨタ・ホンダ公認の修理工場)
9日目	11月8日(土)	ニューヨーク着	・自由視察
10日目	11月9日(日)	ニューヨーク発	移動日
11日目	11月10日(月)	成田着	移動日 成田到着後解散

■参加者（17名）

※順不同・敬称略

1	株式会社オートバックスセブン	森本 弘徳	取締役副社長 執行役員 ※団長
2	株式会社タクティ	七瀬 功	参与
3	株式会社オートバックス ファイナンシャルサービス	住野 泰士	代表取締役会長
4	株式会社ボンフォーム	西脇 保彦	代表取締役社長
5	株式会社カナック企画	金子 高一郎	代表取締役社長
6	株式会社クレトム	白神 博	代表取締役社長
7	株式会社カーメイト	井上 満	上席執行役員
8	エステーオート株式会社	棚橋 公三	相談役
9	武蔵ホルト株式会社	淵田 昌嗣	社長執行役員
10	株式会社エッチ・ケー・エス	長谷川 浩之	代表取締役社長
11	株式会社ワーク	田中 毅	代表取締役社長

12	ブリッド株式会社	高瀬 嶺生	代表取締役社長
13	株式会社トムス	舘 信秀	代表取締役会長
14	株式会社トムス	藤田 明	専務取締役
15	有限会社フォルテシモ	坂本 佳子	マネージャー
16	日本自動車用品・部品 アフターマーケット振興会	植草 正拓	事務局長
17	近畿日本ツーリスト	宮城 和加子	添乗員

— 11月1日（土）サンパウロ市内視察 —

カー用品店 Kogakoga サンパウロ店

日系人である古賀孝則氏により 1968 年に設立されたカー用品店。店名の Kogakoga（コガコガ）は設立者の古賀氏の名前に由来する。

訪れたサンパウロ店は自ら大型スーパーと名乗るだけあって敷地面積 6000 m²と大きい。商品アイテムは大きなストックスペースを持つ補修部品をメインに油脂類、ワイパーやバッテリーといった消耗品の品揃えが豊富であるが、オーディオ関係、アクセサリ類は日本のように洗練されたものではなく、その種類も限られる。当日は、週末ということもあり駐車場はほぼ満車状態、店内も買い物客で比較的賑わっていた。

基本的にクルマに関しては DIY 文化が根付いているようで、一世代前の米国の大手チェーン PEPS BOY のような雰囲気がある。

なお、Kogakoga はブラジル国内に 3 店舗を構える。



Kogakoga サンパウロ店全景

売場



レジカウンター

向かいにも補修品を扱う別店舗が数店並ぶ地域

カー用品店 VOLI 空港店

サンパウロに3店舗を構えるカー用品店 VOLI（ボリ）、こちらも日系人が経営しているブラジルで人気の高い店舗とのこと。

大きな外観の店内は天井が高く、一部オーディオ等の高額商品を展示してある2階のフロアがあるものの売り場面積の割に商品の陳列に無駄が多い。また店内は閑散としていたが店舗に隣接するピットには多くの作業待ちの車を見ることが出来た。

品揃えは Kogakoga と同様に補修部品をメインに油脂類、消耗品の品揃えが多かったがタイヤに関しては多くのスペースを割いている。

VOLI は、オイル交換といった日常的な作業から、エンジン調整をはじめタイミングベルトやウォーターポンプ、パワーステアリングポンプ等の交換、足回りに関わるアライメント調整や各種ブッシュ類、ショックアブソーバーのチェック・交換といった日本で云うところの整備工場的な作業を得意としている。

ピットの様子や比較的綺麗な高年式車が並ぶ駐車場から推測すると、先の Kogakoga に比べ自ら手を汚して作業をする人たちではなくワンランク上の客層をターゲットとした店舗作りを行っているようである。



VOLI 空港店



店舗に隣接するピット入口



1階売場

—— 11月1日（土）在ブラジル日本商工会議所による講演 ——

ブラジル サンパウロ到着、初日の夕食会時にカナック企画の金子代表（JAAMA 会員）のご紹介で在ブラジル日本商工会議所に在籍する天谷浩之氏（機能強化委員会アドバイザー）による講演を聞く機会に恵まれた。

講演内容は別資料の通り、ブラジルの基本情報、在ブラジル日系企業の動向、自動車に関わる情報、ブラジル経済の根幹等について限られた時間の中ではあったがお話していただいた。

講演内容で特に印象に残った事項は、ブラジルの総人口は世界第 5 位で 2 億人弱。その内約 1 億 3000 万人は南東部（リオ・デ・ジャネイロ州、サンパウロ州他）と南部（パラナ州、サンタ・カタリーナ州他）に集中していて、この地域に多くの日系企業が進出していること。

また、ブラジルでのビジネスを考える場合、50 種類を超える多数の税と一度上げた給与を下げる事ができず、更に毎年ベースアップしなくてはいけないという労働者保護による労使問題、さらに鉄道網が整っていないため、大陸ゆえ長距離を車に頼らざるを得ない輸送コスト等を考慮しなくてはならないこと。

実際、渡伯しミネラルウォーターや軽食類を購入してみると思いのほか物価の高いことを実感。日本国内では大衆車であるカローラ、シビックが 9 万レアル（約 450 万円）、フィットでさえ 5 万レアル（約 250 万円）するという。特に自動車に関する税が高額で車両価格の 46%が税金というから驚きである。

ちなみにブラジル国内での 2013 年度の各自動車メーカーの販売シェアは次の通り。

フィアット：21.3%、VW：18.6%、GM：18.1%、フォード：9.3%、ルノー：6.6%、現代：5.9%、トヨタ：4.9%、ホンダ：3.8%、日産：2.1%（日本車トータル約 11%）、その他

※出所 日経新聞



ご講演いただいた在ブラジル日本商工会議所の天谷浩之氏

貴重な資料をもとに講演が進められた

—— 11月2日（日） 第28回サンパウロ国際モーターショー14視察 ——

<モーターショー概要>

- ・会 期 2014年10月30日（火）～11月9日（日） 11日間
- ・開催地 ブラジル サンパウロ
- ・会 場 Anhembi（アニエンビー）
- ・入 場 料 32～80レアル（約1,500～4,000円・入場日、条件により異なる）

サンパウロ国際モーターショーは、世界5大モーターショー（東京モーターショー、フランクフルトモーターショー、北米国際オートショー、ジュネーヴ・モーターショー、パリサロン）の枠からは外れており華やかさも含め規模的には余り大きくはないショーである。しかしながら自動車主要産業国での開催ということでパイプの太い主要自動車メーカーは大きなブースを構え熱のこもった

出展を行っていた。

このショーは、どちらかという一部展示のあるコンセプトカーといった未来志向のモデルを見せるというよりも、現行車あるいはニューモデル（発売予定）といった、より現実的な車達を出展することにより、入場者の購買意欲をかき立てるといったショーではないかとのイメージを受けた。現に来場者は、個人あるいは家族で思い思いの車に乗り込み室内空間、シートポジションやトランク容量等を確認していた。また、メーカー側もこれを拒否することなく快く受け入れていた。お国柄なのか会場でビールの販売もしており、それを手に持ったまま車に乗り込む姿は日本では考えられない様子だった。

現地の方に聞いたところ、日本に比べ高い入場料の対価は自分のお目当ての車が一堂に揃っていて自由にじっくりと内外装を確認できることだという。



サンパウロ国際モーターショー14会場前にて



会場配置図からもコンパクトなショーであることがわかる 会場内の様子（ブラジル国内で人気の高いスズキのブース）



トヨタブース カラーベースのレース仕様車の展示



デトロイトショーで発表されたコンセプトカー『FT-1』



先日国内で発売されたばかりの燃料電池自動車『FCV』の
コンセプトモデル プリウスの展示もあった



ブラジルでは各メーカーが SUV、RV、ピックアップトラック
といったジャンルに積極的に力を入れている



日産ブース



日産は2つのブースに分かれての展示



ブラジル向けに製作された『キックス・コンセプト』



『GT-R (R35)』の展示 触れない展示車両は人気が無い？



ホンダブース 小型車が中心の展示コーナー



発売が待たれる NSX のコンセプトカーも展示されていた



ホンダの燃料電池自動車『FCEV コンセプト』



ブラジルで来年発売予定の新型『HR-V（日本名：ヴェゼル）』



三菱ブース



前回 2013 年の東京モーターショーでも展示されていた
プラグインハイブリッド車のコンセプトモデル『GC PHEV』



スバルブース



今年のジュネーヴ・モーターショーで初公開された次世代
クロスオーバーハイブリッド車『VIZIV 2 コンセプト』



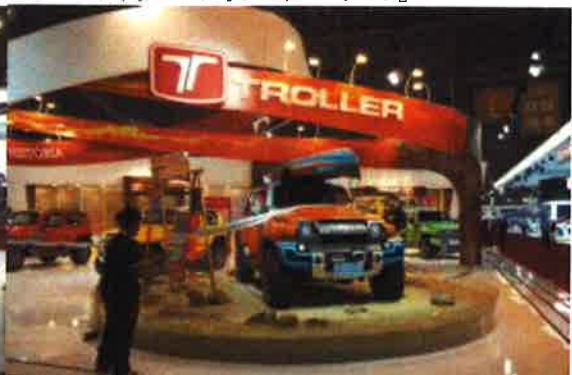
VW ブース



今回初公開、南米市場専用のサベイロをベースした
スポーティグレード『サベイロ・サーフ』



BMW ブースはMシリーズや13、8といったスペシャルモデル
の展示に力を入れていた



日本では馴染のないブラジルの老舗メーカー『トロラー社』
現在はフォードの傘下にある



中国や韓国といったメーカーの出展もあった



唯一オーディオメーカーの出展社 パイオニア



ポルシェやフェラーリ、マセラティといった高級車を購入する富裕層も存在し、渋滞を理由に週末のみ使用すること





ブラジル国内でシェアトップのフィアットは、小型車の展示に工夫を凝らしている



アウディは昨年ル・マン 24 時間耐久レースで 2 年連続総合優勝を果たしたハイブリッドマシン R18 e-tron Quattro (2013 年モデル) を展示

多くの展示車が乗れて触れる 4 割近くが 10 クラスの小型車というブラジル市場だが近年減少傾向にあるという こういった大排気量のスポーツカーにあこがれる人も多いと聞く

【主な出展自動車メーカーのトピックス】※出所レスポンス

- 日産は、2 年前の 2012 年のサンパウロモーターショー12 で同社が初めてブラジル向けにデザインし、ブラジルで製作したコンセプトカー『エクストレム』(EXTREM) を初公開したのに続き、今回もブラジル向けに製作されたコンセプトカーでワールドプレミアとなる小型クロスオーバー車『キックス・コンセプト』を初公開した。(画像有)
これは、サンパウロ市街地のグレーに、明るいサンセットオレンジを組み合わせ、ブラジルらしさを表現したというデザインコンセプトで、設計は日本のグローバル・デザイン・センターが主導。これに、米国サンディエゴとブラジル・リオの 2 か所の日産デザインアメリカのチームが加わり、共同で作業が進められた。
- ホンダは、新型『HR-V (日本名: ヴェゼル)』(画像有) と『CR-V』マイナーチェンジモデルのブラジル仕様市販予定車を初公開した。
新型『HR-V』は、2015 年にブラジルで発売予定。SUV の力強さ、クーペのあでやかさ、ミニバンの使いやすさを高次元で融合した HR-V に、ブラジルでは 1.8 リッター SOHC i-VTEC フレックスフューエルエンジンと CVT を組み合わせて搭載。ワンクラス上の走行性能と低燃費を実現している。
また、『CR-V』は新デザインのフロントグリル、ヘッドライト、バンパーに加え、室内の質感、装備を充実。2015 年前半にブラジルで発売を予定している。
- VW は『フォックス』の「ペッパーエディション」を初公開した。(画像有)
フォックスは 2004 年に発表された主に中南米で販売している、ブラジル工場生産される『ポロ』よりも、ひと回り小さいコンパクトカー。「ペッパーエディション」は、最新型の『フォックス』をベースにしたコンセプトカーで「スパイシー」をテーマに、内外装をスポーティかつ若

々しく表現した。ボディカラーは、レッドトルネード、ルーフは黒で仕上げ、フロントバンパーは専用デザインで、新型『ゴルフ GTI』モチーフのメッシュパターングリルも装備。フェンダーには、樹脂製のエクステンションを追加する。室内には、ツートンのレザーを採用しステアリングホイールは、新型『ゴルフ』に近いデザインとした。ESC やトラクションコントロールなど、安全装備も充実。搭載エンジンはエタノール燃料にも対応した 1.6ℓ直列 4 気筒ガソリンで、最大出力 120hp。6 速 MT との組み合わせで、0-100km/h 加速は 9.8 秒、最高速は 189km/h と公表されている。

VW は、もう一台『サベyro・サーフ』も初公開した。

これは南米市場専用の小型ピックアップトラック『サベyro』をベースに若い顧客へのアピールを強化したスポーティグレードである。車名の『サベyro』は、ブラジルの伝統的フィッシングボートの名前に由来している。もとは南米専用の小型車『ゴル』をベースに開発され、1984 年に初代モデルを発売、現行型は 2009 年夏に発表された 5 世代目モデルになる。また初代『サベyro・サーフ』は、2002 年に発表されている。

『サベyro・サーフ』の外観は、2 ドアボディに歴代『サベyro・サーフ』と同様、専用メッシュグリルや 15 インチアルミホイールなどでスポーティさを表現。サーフボードなどの長尺物を簡単に固定できるようにした機能的な荷台を組み合わせたデザインとなっている。室内は、合成レザーシートやグレーのトリムパネル、アルミペダルなどが採用されている。エンジンは 1.6ℓ直列 4 気筒の「VHT」（フォルクスワーゲン・ハイ・トルク）ユニット。南米向けらしく、ガソリンとエタノールの両燃料に対応したフレックスフューエル車となるのが特徴で、最大出力はガソリン使用時が 101hp、エタノール使用時が 104hp となる。

- フィアットは、コンセプトカーの『FCC4』を初公開した。

『FCC4』は、フィアットの南米デザインセンターが開発を担当。「4 ドアクーペ」をテーマに冒険スピリットを持ったコンセプトカーとしている。デザインは、ブラジルで人気のピックアップトラックにクーペモチーフを組み合わせたもので、現代において SUV のクーペは珍しい存在ではないが、ピックアップトラックにクーペデザインという新たなものとなっている。『FCC4』のボディサイズは、全長 5000mm、全幅 1940mm、全高 1600mm。ボディカラーは新色のメタリックブルーで塗装し、存在感をアピールした。

- ルノーのダチアブランドは、コンセプトカーの『ダスター・オロチ』を初公開した。

元々はルーマニアの自動車メーカーであるダチアは、1966 年創業と長い歴史を誇る。当初はルノー車をノックダウン生産していたが、1980 年代半ばから、オリジナルモデルを開発してきた。しかし、1990 年代に経営が悪化、1999 年にはルノーの傘下に入り、経営再建に取り組んだ。現在では、ルノーグループの低価格車を開発・生産する重要な役割を担う。

ベースとなる『ダスター』は、ダチアの主力 SUV。今回のコンセプトカー『ダスター・オロチ』では、そのピックアップトラック版としている。設計は、サンパウロにあるルノーの南米デザインセンターが手掛けており、大人 5 名が乗車できる広い室内にリフトアップされた最低地上高、18 インチのタイヤとホイール、サイドプロテクトモールなどを採用。「どこにでも行ける車」として、機動性をアピールする。

なお、ルノーによると南米の LCV（軽商用車）市場においてピックアップトラックは、およそ 75% の市場シェアを占有し、年間 92 万台以上の市場規模を持つという。ルノーはすでにピックアップトラック市場への参入計画を発表しており、今後少なくとも 2 車種を投入する」と説明している。

- フォードモーターは、トロラー社の『T4』の「オフロードレスキューコンセプト」を初公開した。

トロラー社はジープタイプのオフロード車を得意とする 1955 年ブラジルに設立された老舗自動車メーカーで、2007 年 1 月にフォードモーターが買収し、現在は同社の傘下にある。

「オフロードレスキューコンセプト」は、2014 年に大幅改良を受けたばかりの主力 SUV 『T4』の最新型をベースに名前の通りオフロードでの救援車両をイメージしたコンセプトカー。

市販車の『T4』に、シュノーケルやウインチなどを追加。サスペンションも専用チューニング、17インチのアルミホイールにオフロードタイヤを装着し過酷なオフロードで本領を発揮する仕様としている。ボディカラーはツートンで、内装はブラウンとタンの組み合わせ。ボディサイドには、LEDライトを追加している。

●GMは、シボレー『オニクス』の「トラック・デイ」を初公開した。

ベースとなる『オニクス』は、強豪ひしめくブラジル小型車市場向けに開発された小型5ドアハッチバック車で2012年のサンパウロモーターショー12でのワールドプレミア。

1.0ℓと1.4ℓの2種類のガソリンエンジンにトランスミッションは5速MTに加えて、『クルーズ』や『ソニック』と同じ6速ATもラインナップ。GMの最新インフォテインメントシステム、「マイリンク」も設定されている。

今回、初公開された「トラック・デイ」は、『オニクス』をベースに、サーキット走行をイメージしたコンセプトカーで排気量をアップし、サスペンションやブレーキ、エグゾーストシステムをサーキット用にチューニングしている。エクステリアは、ブライトイエローのボディカラーに、前後スポイラーなどのエアロパーツを採用。タイヤサイズは215/45R17で1.8ℓ直列4気筒ガソリン「エコテック」エンジンは、ブラジルらしくエタノール燃料にも対応。最大出力は150hp以上を発生する。

GMは、もう一台シボレーブランド『S10』の「ハイ・カンントリー」を初公開した。

『S10』は、シボレーブランドの小型ピックアップトラックで米国では1982年から2003年までの21年間販売された。その後、後継車のシボレー『コロラド』が登場し、『S10』の名前は米国では消滅しているが、ブラジルでは2012年に現地生産が始まった『コロラド』を『S10』の名前で販売している。この『S10』をベースにしたコンセプトカーが「ハイ・カンントリー」で、ボディカラーは赤いメタリック色の「レッドチリ」で塗装。ダーククロームの18インチホイールを履いている。インテリアは、2015年モデルの『トレイルブレイザー』のイメージを踏襲し、ツートンレザーやグロスブラックパネルなどが採用されている。

さらにもう一台、GMのシボレーブランドは『コバルト』のカスタマイズコンセプトカーを初公開している。

初代『コバルト』は『キャバリエ』（1996-2000年トヨタが日本でも販売）と『プリズム』を統合して2004年に誕生したモデルで、4ドアセダンと2ドアクーペの2種類が用意されている。北米向けは2010年に後継車である『クルーズ』に継承されることで生産が終了しているが、2011年11月に新型の『コバルト』を北米を除いた欧州、アフリカ、中東、南米など、世界の約40市場へ投入した。開発はGMのブラジル部門が主導し、GMの世界3拠点で生産中である。ボディサイズは、全長4479×全幅1735×全高1514mm、ホイールベース2620mm、大人5名が快適に過ごせる室内スペースとトランク容量は563ℓ（VDA計測法）が確保されている。エンジンは1.3~1.8ℓの直列4気筒を設定されており、最初に投入されたブラジルでは、ガソリンとエタノールの混合燃料に対応したフレックスフューエル仕様の1.4ℓと1.8ℓがラインナップされた。今回初公開されたカスタマイズコンセプトカーは、『コバルト』のパーソナライゼーションを提案した1台で、グリルはフレームをダーククローム、内部をグロスブラックで仕上げ、専用の16インチアルミホイールを装着した。インテリアは黒基調でまとめ、ダークレザーとライトグレーの刺繍を使用し上品さと洗練さを表現している。

モーターショー視察終了後、会場近くにある自動車ディーラーの集まるオートモールへ向かったがモーターショー開催期間中のせいなのか、「現代」以外は全てクローズド状態であった。そのため予定を変更し1994年サンマリノGPで亡くなったアイルトン・セナ（アイルトン・セナ・ダ・シルバ）が眠る、サンパウロ市にあるモルンビー墓地を訪れた。



—— 11月6日（木）在リオデジャネイロ日本国総領事館訪問・セミナー ——

ブラジル リオデジャネイロ滞在時に在リオデジャネイロ日本国総領事館を訪問することができた。これは JAAMA 西協理事長（ボンフォーム代表）の手配により実現したもので、改めてこの場を借りてお礼を申し上げます。

セミナーの内容は別資料の通り、ブラジル経済について、自動車産業の概要、同現状、ブラジルにおける経済上の課題等についてレクチャーいただいた。

主な補足説明は以下の通り。

- ・ブラジルは経済成長率から見て停滞気味である。これは隣国の輸出先であるアルゼンチンの経済破綻が大きな原因の一つである。
- ・車のシェアは VW、フィアット、GM、フォードといったビッグ 4 が占めているが、近年減少傾向にある。逆に現代はデザイン・スタイルがブラジル人好みという理由から 2013 年は伸びている。
- ・国民全体の生活水準が上がってきており、中間層が車を欲しがっている状況。
- ・トヨタ、ホンダ、日産、三菱が進出していてトヨタは順調。日産は今年 4 月に新工場をリオデジャネイロに建設、1500 名の雇用も行った。2016 年までに 5% のシェアを目標としている。
- ・街中では余り見かけないエコカーに関して、ハイブリッド車は工業製品税を下げるなど政府もその普及に力を入れている。また、ガソリン車増でエタノール燃料の製造自体は下降気味。ガソリンに関しては国営企業であるペトログラス社が国策として海外から輸入したものを国内で安価に販売していることから、ブラジル政府としてはエタノール車のシェアを増やしたい意向である。
※訪伯時の価格（ℓ、円換算） ガソリン：130 円 ハイオクガソリン：140 円 エタノール 80 円
- ・カー用品では、特にカーナビの盗難が多いと聞く。
- ・ブラジルのコストに関しては、サンパウロで聴講した在ブラジル日本商工会議所の内容と同様、労働者保護に起因する多発する労働訴訟、物価上昇率にリンクする高い人件費（今年 6.5% アップ）、多種多様な税金、人的物的なインフラの未整備（特にトラック、船に頼ることによるコスト、輸送時間問題）、複雑な政治事情により政治関係が停滞することもある。また、治安に関してテロは無いが盗難、殺人が多い。リオデジャネイロ州だけで殺人は日本全体の 17 倍、強盗は 230 倍とのこと。



—11月7日(金) H-Centro視察—

リオデジャネイロ最終日にトヨタ及びホンダ、両社の公認を受けているという修理工場の視察を行った。修理は多岐に渡り、オイル交換といった一般的なメンテナンスから重整備、また板金作業まで行う。空調設備は無くパテ研ぎの粉が舞う工場内は、日本と比べると決して労働環境は良いとはいえないが、ブラジル国内の他のところと比べればまだ恵まれているとのこと。



視察に伺った H-CENTRO 社

同社のサービスメニューが看板になっている
設備は充実している



アフターのアルミ、純正補修パーツやアクセサリ類をディスプレイする

ブラジルの人達はとてもフレンドリー



説明を受ける参加者達

トヨタ、ホンダ車以外の入庫もある



板金、調色、塗装といった一連の作業をここではこなす

—最後に—

今回のツアーは、ブラジルのサンパウロ、パラナ（イグアス）、リオデジャネイロの3州を回り、サンパウロモーターショーを中心にそれぞれ自動車に関連した施設の視察を行ったほか、自由視察でブラジルを肌で感じてきた。

正直、メイン視察先であったサンパウロ国際モーターショーは、規模は小さく現行車はその多くを占め、コンセプトカーといった展示物に真新しいものがないなど、他のモーターショーと比べると見劣りするものではあった。しかしながら考え方を変えると、実際に会場で感じた「購入したい、乗ってみたい車」を実際に見て触れる場として捉えれば、それはそれで正しい一つのモーターショーの姿なのかもしれない。

ブラジルは、街中を見ている走っている車は小型車ばかりだ。各自動車メーカーもターゲットゾーンである小型車のショー出展に余念がない。だが、現在約4割を占める1ℓクラスの小型車も近年減少傾向が進み、ステップアップの波が近くまで来ていると聞く。

在ブラジル日本商工会議所や在リオデジャネイロ日本国総領事館の情報では、多種多様で高額な税制、一度上げた給与を下げるができない労使関係、交通インフラ、治安等々、多難な問題を抱えているという。こういった問題をクリアすることは、まだまだ時間も掛る難しいことではあるが、これらの問題を解決していくことは、ブラジルという国がこれからまだまだ伸びていく可能性があることを再びアピールすることになるだろう。その証拠に、既に日本の大手企業が進出を果たしてシェア拡大に努めている。

ブラジルは日本のほぼ真裏に位置することから移動時間等を考えると、こういった機会が無ければ気軽に行ける場所ではない。そういった意味で今回の参加者の多くは同様の考えであったと思う。文献等で知りうるブラジルと実際に足を運んだブラジルとの違いは三者三様ではあると思うが、片道24時間の移動時間と引換とはいえ、文献やネット情報等では決して得られない現地を肌で感じられたことは、参加者にとって貴重な経験であったと確信している。

以上

日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会（NAPAC）
事務局長 植草 正拓

平成26年度 収支報告について

2014年度収支報告

2014年4月1日から2015年3月31日まで

科 目	当期予算額	当期実績	当期予実差額	備考
I 収入の部				
会費収入(正会員)	13,508,000	13,538,000	30,000	
会費収入(賛助会員)	12,000,000	12,000,000	0	
受取利息		1,062	1,062	
自販機	2,700,000	8,031,258	5,331,258	
当期収入合計(A)	28,208,000	33,570,320	5,362,320	
II 支出の部				
外注加工費	500,000	531,513	31,513	
荷造運賃	300,000	157,845	-142,155	
会議費	8,000,000	7,725,405	-274,595	
旅費交通費	900,000	860,303	-39,697	
諸会費	220,000	220,000	0	
支払報酬料	240,000	129,600	-110,400	
交際費	200,000	176,139	-23,861	
広告宣伝費	140,000	743,405	603,405	秋の交通安全啓発50万
自販機設置手数料		4,091,528	4,091,528	
研修費	157,000	919,626	762,626	海外視察40万、研修資料40万
販売促進費		619,650	619,650	洗車の日コンテスト40万
事業費計(B)	10,657,000	16,175,014	5,518,014	
給料手当	8,400,000	8,188,468	-211,532	
通信費	992,000	964,197	-27,803	
備品消耗品費	680,000	757,101	77,101	
水道光熱費	540,000	502,890	-37,110	
新聞図書費	240,000	221,502	-18,498	
支払手数料	450,000	676,688	226,688	家賃更新料30万
地代家賃	4,420,000	4,346,574	-73,426	
リース料	960,000	881,820	-78,180	
保険料	35,000	72,577	37,577	
租税公課	100,000	133,450	33,450	
支払報酬料	684,000	654,480	-29,520	
雑費	50,000	43,508	-6,492	
管理費計(C)	17,551,000	17,443,255	0	
当期支出合計(D)	28,208,000	33,618,269		
当期収支差額(A) - (D)	0	-47,949		

2014年度貸借対照表

(単位:円)

科 目	前年度	当年度	増 減
I 資産の部			
現金・預金			
現金	363,757	374,354	10,597
普通預金	4,486,412	3,681,120	-805,292
現金・預金計	4,850,169	4,055,474	-794,695
貯蔵品			0
前払費用			0
未収入金		312,440	312,440
敷金	1,731,432	1,731,432	0
資産合計	6,581,601	6,099,346	-482,255
II 負債の部			
未払金	1,084,247	1,721,197	636,950
預り金	11,618	17,588	5,970
仮受金	1,564,948	487,722	-1,077,226
負債合計	2,660,813	2,226,507	-434,306
III 純資産			
繰越利益	3,920,788	3,920,788	0
当期純損益		-47,949	-47,949
純資産合計	3,920,788	3,872,839	-47,949
負債・純資産合計	6,581,601	6,099,346	-482,255

